

図書案内 2016年 12月号

担当 2-2H 山崎・2-5H 吉田

詩

各地で雪が降り始め、だんだん寒くなってきました。木々もすっかり葉を落とし、落ち葉がはらりと舞う季節。その枝に白い雪が降り積もってゆくのもまた一興です。

12月は詩集特集。物語だけではなく、短い文章で凝縮された詩の世界も味わってみませんか？ 今回は三つの詩集を紹介します。ぜひ読んでみてください。図書館にて貸出しています。

『のはらうた』 工藤直子／著

すきなもの

みみずみつお



わたしは ひるねが すきです

あなたは なにが すきですか

中学校の教科書にも採用されている工藤直子の「のはらうた」。「おれはかまきり」など知っている人も多いのではないのでしょうか。「すみれほのかさん」や「ありんこたくじくん」などの、のはらむらのみんなの、かわいらしく心が温まる詩がたくさんあります。ぜひ読んでみてください。

『金子みすゞ童謡集』

金子みすゞは「わたしと小鳥とすずと」などで有名ですね。彼女は二十六歳の若さでこの世を去りました。彼女の遺したやさしく深い詩が収められた「金子みすゞ童謡集」。巻末に矢崎節夫さんの解説がついています。ここで金子みすゞの詩を一つ。

もくせい

もくせいのにおいが

庭いっぱい。

おもての風が、

ご門のところで、

はいろか、やめよか、

そうだんしてた。



『日本の詩歌 中原中也』

「汚れつちまつた悲しみに 今日も小雪の降りかかる……」

このフレーズ、皆さんも聞いたことがあると思います。この詩の作者の中原中也は、私たちと同じくらいの年で、女優と同棲しています。三十歳の若さでなくなるまでの間、恋の情熱や、その恋の相手、親しい人との別れを通して、さまざまな詩を書きました。解説を読み、その詩を作ったとき、中也がどのような状況であったのかをふまえて読むと、詩のリズムや繰り返しの一つ一つがまた違って心に響いてくるでしょう。

ふと寂しくなった寒い日などは、自然と中也の詩が口をついて出ることでしょう。

汚れつちまつた悲しみに
今日も小雪の降りかかる
汚れちまつた悲しみに
今日も風さへ吹きすぎる

